

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：24505

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K19090

研究課題名（和文）間質性肺疾患患者家族に対する情報ニーズ探究と相談者によるHRQOLへの影響調査

研究課題名（英文）Information Needs Exploration for Families of Patients with Interstitial Lung Disease and Survey of Impact on HRQOL by Consultants

研究代表者

佐藤 隆平（Sato, Ryuhei）

神戸市看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：10752058

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、2つの目的で実施していた。第1に、外来通院の間質性肺疾患患者家族を対象に、患者とその家族、患者の長期酸素療法の有無により情報ニーズの様相が異なるかを調査した。解析対象は65名の患者とその家族であり、立場と長期酸素療法の有無によって情報ニーズの様相が異なっていた。第2に、Medical Outcomes Study 36-Item Short-Form Health Surveyを用いて、相談者の有無により間質性肺疾患患者の家族の健康状態に差があるかを比較した。解析対象は58名の患者とその家族であり、相談者の有無で健康状態に差は認められなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第1の研究により、患者とその家族の情報ニーズは同じではなく、長期酸素療法の有無によっても情報ニーズの様相が異なることが明らかになった。臨床における医療提供者は、情報を受け取る側の立場、患者の状態に応じた適切な時期、必要な情報を考慮すべきであることが示唆された。第2の研究により、家族は健康状態が良い状態であり、相談者の有無でその家族の健康状態は左右されることが分かった。これらの研究成果を踏まえ、今後は患者とその家族を支援する効果的な支援プログラムを構築する研究が望まれる。

研究成果の概要（英文）：The study had two objectives. The first was to determine whether there are differences in information needs between outpatients with ILD and their family caregivers and whether these differences depend on long-term oxygen therapy use. Sixty-five patients and their family members were analyzed, and their information needs differed according to their position and whether they were on long-term oxygen therapy. Second, the Medical Outcomes Study 36-Item Short-Form Health Survey was used to compare whether the health status of family members of patients with interstitial lung disease differed depending on whether they had a consultant or not. The analysis included 58 patients and their family caregivers, and there were no differences in health status by the presence or absence of a consultant.

研究分野：呼吸器内科

キーワード：間質性肺疾患 家族 情報ニーズ HRQOL

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

平成 28 年国民生活基礎調査によれば、65 歳以上の者のいる世帯は全世帯の 48%を占め、主な介護者は配偶者や子であった。また、要介護者等と同居の主な介護者の年齢組合せは、高齢者同士が年々上昇傾向にあった。高齢者同士の介護は介護側の健康障害を起こす危険性があり、子の介護は仕事と介護の両立の困難さがある。我々が実施した外来通院中の間質性肺疾患患者 129 例を対象とした横断研究で、平均年齢は 68 歳と高齢であり(Sato R, et al. BMC Pulm Med. 2019)、間質性肺疾患においても在宅で高齢な患者を家族が支える構図が存在した。よって、間質性肺疾患の支援において、地域で生活する患者および家族の心身の健康が害されないようにするパブリックヘルスの概念に立った予防戦略が重要かつ急務な課題と考えられるが、どのような戦略が有効かは不明であり、本課題の核心をなす学問的問いである。

特発性肺線維症や関節リウマチに伴う間質性肺炎は生存期間が約 3 年であり(Kim et al. Eur Respir J. 2010, Raghu et al. Am J Respir Crit Care Med. 2011)、家族は限られた予後の間患者を支えなければならない。しかし、病気に対する情報不足から患者を支える準備が十分出来ていないと言われている(Russell et al. BMC Pulm Med. 2016)。近年インターネット調査による研究から、患者および家族とも病気の進展/予期する出来事についての教育ニーズが最も高いと示されたが(Ramadurai et al. Chron Respir Dis. 2019)、間質性肺疾患患者の病気の経過とともに家族の心境は変化すると言われている(Belkin et al. BMJ Open Respir Res. 2014)。したがって、患者の状況を考慮した患者家族の情報ニーズを把握することにより上記学問的問いに対する解答の手がかりが得られると考えられる。

さらに、間質性肺疾患患者の家族は不安状態にあることや精神的側面の QOL が低いと報告されている(Lindell et al. Heart Lung. 2010, Shah et al. Heart Lung. 2018)。この精神的側面を支援する役割を医療者が担うと考えられるが、日本で医療者が相談者として機能しているかは不明である。よって、相談者の実態把握を行い、予防戦略の一つとして相談者の存在が家族の Health Related Quality of Life (HRQOL) 等へポジティブな影響を与えているのか調査する。

2. 研究の目的

横断研究で京都大学医学部附属に外来通院している間質性肺疾患患者家族を対象に、患者とその家族、患者の長期酸素療法の有無により情報ニーズの様相が異なるかどうかを調査した(目的 A)。また、間質性肺疾患患者の家族において、相談者の実態を明らかにし、相談者の有無により家族の HRQOL、介護負担、不安・抑うつに差があるかを比較検討した(目的 B)。

3. 研究の方法

目的 A については、2020 年 2 月から 2022 年 3 月までに京都大学医学部附属病院を受診した間質性肺疾患患者とその家族を対象とした。間質性肺疾患には、特発性間質性肺炎、膠原病に伴う間質性肺疾患、過敏性肺炎が含まれた。データは電子カルテとアンケートから得た。分析は、記述統計量を算出し、患者とその家族、長期酸素療法の有無別で比較した。

目的 B については、患者の疾患は目的 A と同じとし、2020 年 2 月から 2022 年 1 月まで対象者を登録した。HRQOL を Medical Outcomes Study 36-Item Short-Form Health Survey (SF36) で評価し、相談者の有無で差があるかを比較検討した。また介護負担度について Japanese version of the Zarit Caregiver Burden Interview (J-ZBI)、不安・抑うつ尺度について Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS) を使用して、相談者の有無別で比較も行った。

4. 研究成果

(1) 目的 A

解析対象は、65 名の患者とその家族であった。間質性肺疾患の分類としては、特発性間質性肺炎 27 名(41.5%)、膠原病に伴う間質性肺疾患 34 名(52.3%)、過敏性肺炎 4 名(6.2%)であった。患者とその家族の関係は、配偶者(67.7%)が最も多かった。患者とその家族の情報ニーズは、第 3 位までは共通であったが、それ以外は異なっていた(図 1)。「病気の進行と予期する事柄」は、長期酸素療法の有無別や患者家族間に左右されず 1 位であった。長期酸素療法あり群では、「症状マネジメント」、「医療従事者とのコンタクト」、「エンドオブライフケア等」に対するニーズが高かった。家族は、長期酸素あり群では、「食事と栄養」についての関心が高かった(図 2)。

(2) 目的 B

解析対象は、58 名の患者とその家族介護者であった。患者において、身体機能、日常役割機能で中央値 40 点未満を示し、3 コンポーネント・サマリースコアの身体的側面で中央値 40 点未満であった。家族において、中央値が 40 点未満となる項目は無かったが、体の痛みが 43.8 点を示していた。相談者の有無別では、プライマリーエンドポイントの家族の日常役割機能(精神)を含め SF36 の全ての項目、J-ZBI、HADS の各スコアに差は認められ

なかった。今後更なる解析を実施し、国際雑誌に投稿する予定である。

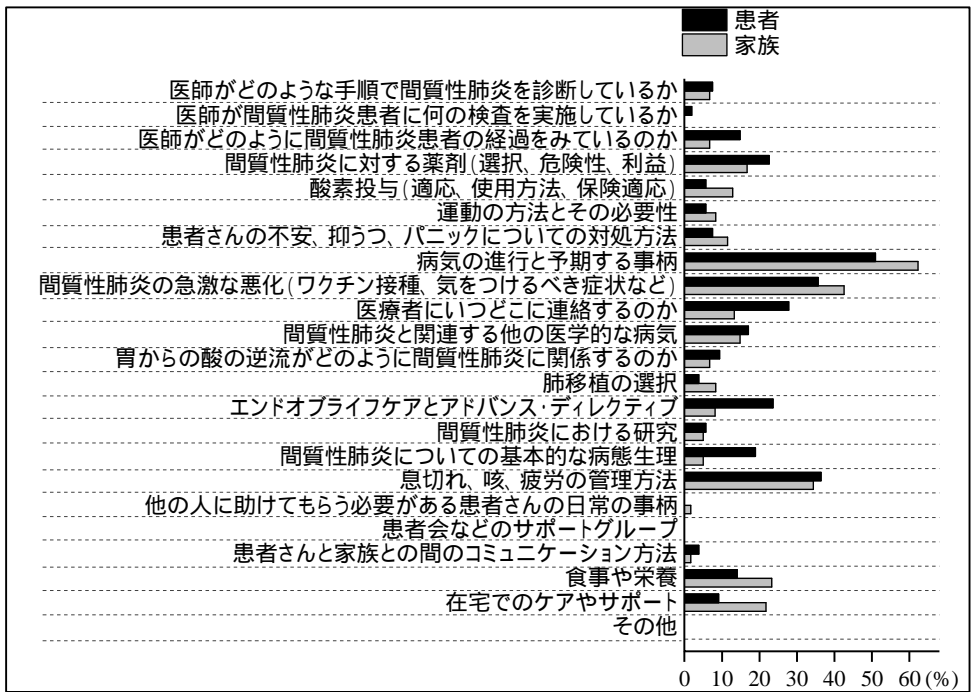


図1. 間質性肺疾患患者とその家族の情報ニーズ

患者の主な情報ニーズは、「病気の進行と予期する事柄」、「症状マネジメント」、「急性増悪」、「医療従事者へのコンタクト」、「エンドオブライフケア等」の順であった。一方、家族の主な情報ニーズは、「病気の進行と予期する事柄」、「急性増悪」、「症状マネジメント」、「食事や栄養」、「在宅でのケアとサポート」の順であった。

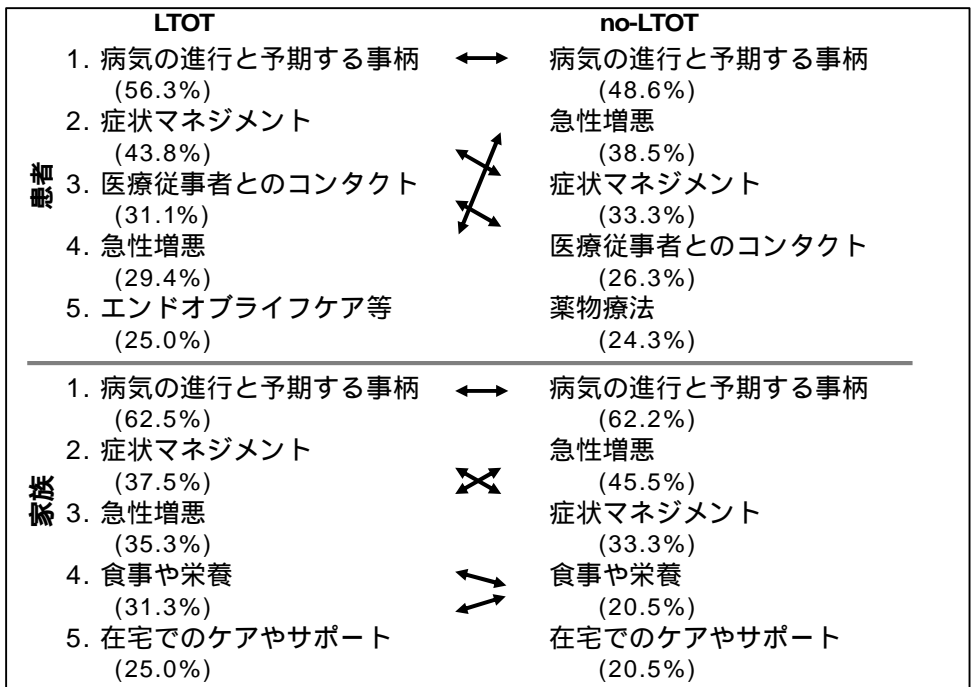


図2. 間質性肺疾患患者とその家族の酸素療法有無別の主な情報ニーズ

「病気の進行と予期する事柄」は、長期酸素療法の有無別や患者家族間に左右されず1位であった。長期酸素療法あり群では、「症状マネジメント」、「医療従事者とのコンタクト」、「エンドオブライフケア等」に対するニーズが高かったが、「急性増悪」と「薬物療法」に対するニーズは比較的lowかった。家族は、長期酸素療法なし群では「急性増悪」に関心を持っていた。長期酸素療法あり群では、「食事と栄養」についての関心が高かった。

長期酸素療法 (long-term oxygen therapy: LTOT)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Sato Ryuhei, Handa Tomohiro, Matsumoto Hisako, Hirai Kota, Ohkura Noriyuki, Kubo Takeshi, Hirai Toyohiro	4. 巻 60
2. 論文標題 Antitussive Effect of a Chest Band in Patients with Interstitial Lung Disease: The Preliminary Results from a Pre-post Intervention Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 3701～3707
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2169/internalmedicine.6716-20	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sato Ryuhei, Handa Tomohiro, Tanizawa Kiminobu, Hirai Toyohiro	4. 巻 23
2. 論文標題 Variation in information needs of patients with interstitial lung disease and their family caregivers according to long-term oxygen therapy: a descriptive study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMC Pulmonary Medicine	6. 最初と最後の頁 486
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s12890-023-02795-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 佐藤 隆平, 半田 知宏, 松本 久子, 大倉 徳幸, 平井 豊博.
2. 発表標題 間質性肺疾患患者に対する胸部固定帯の鎮咳効果を評価した前後比較試験：胃食道逆流症との関連
3. 学会等名 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤 隆平, 半田 知宏, 松本 久子, 久保 武, 平井 豊博
2. 発表標題 咳嗽強度および頻度が顕著な間質性肺疾患例の特徴に関する分析：横断研究
3. 学会等名 日本呼吸療法医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤隆平, 半田知宏, 谷澤公伸, 平井豊博
2. 発表標題 間質性肺疾患患者と家族における情報ニーズ
3. 学会等名 日本呼吸ケアリハビリテーション学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 任 和子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 照林社	5. 総ページ数 648
3. 書名 疾患別 看護過程	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関